

信夫山の資源の保全と活用に関する基本的方針

付 録

令和2年3月

信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会

目 次

1	信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会の意見概要	1
(1)	第1回委員会	1
①	信夫山の周知に関する事	1
②	信夫山の保全に関する事	1
③	観光・交流機能等に関する事	2
④	防災機能に関する事	4
⑤	その他	4
(2)	第2回委員会	5
①	信夫山の資源の保全	5
②	信夫山の資源を活用した交流創出	6
(3)	第3回委員会	8
①	保全に関する基本的方針	8
②	活用に関する基本的方針	8
③	その他	9
(4)	第4回委員会	10
①	保全に関する基本的方針	10
②	活用に関する基本的方針	10
③	その他	10
2	信夫山の資源の保全と活用に関する施策と取り組み例	11
(1)	保全に関する基本的方針	11
①	自然・文化・歴史資源の保全	11
②	防災機能の維持	13
(2)	活用に関する基本的方針	14
①	自然・文化・歴史資源を活用した交流創出	14
②	街なかと連携した交通手段の充実と街なみ・歩行空間の形成	14

1 信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会の意見概要

掲載する意見： ■ 信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会で出された意見等
■ 委員会後に委員や市民から出された意見等

(1) 第1回委員会

① 信夫山の周知に関すること

■ 委員からの意見

- ・ 以前から信夫山の議論がなされているが何も成し遂げられていない
- ・ 行く機会が無くなった
- ・ 若い世代が信夫山へ行かない
- ・ 震災後子どもが登る機会がなくなった
- ・ 豊かな資源が知られていないので、信夫山を知ってもらうことが必要
- ・ これからを担うのは若い世代
- ・ 集落には子どもがいなくなった
- ・ イベント等を通じ信夫山を知ってほしい
- ・ 信夫山の放射線量を正確に知らせる必要がある

■ 市民からの意見

- ・ 福島市のシンボルではあるが、皆あまり関心がない（若い方ほど・・・）
- ・ 観光的な要素がなく、県内・外にも知られていないただの里山
- ・ 環境保護や開発について市民に情報がなく、コンセンサスを得る場がないため、散発的な開発や改善が行われているが、反対の意見も出てくる
- ・ ジブリと連携すれば歩く人も増え健康増進につながられるのでは
- ・ 駅から信夫山へ向かうシンボルストリートの作成

② 信夫山の保全に関すること

ア 緑と風景

■ 委員からの意見

- ・ 駅から見えるため、来街者の目に入りやすく登りたいと思わせる山である
- ・ 自分のまちを見下ろせる最高の展望台がある
- ・ 本来の植生が維持されていない場所がある
- ・ 下草刈りなどをする人がおらず自然環境が悪化している
- ・ 畑の除草等は、個人所有のため独自にできない

- ・絶滅危惧種の蝶もいるはずであり、自然のままの姿を残すことが重要
- ・貴重な自然環境を失うことのないよう配慮することが重要
- ・信夫山の柚子を復活させたい

■ 市民からの意見

- ・豊かな自然環境が十分に活かされていない
- ・貴重な自然資源である森林は、かなり荒廃している
- ・自然の保全
- ・自然環境の荒廃が進み、保安林としての機能維持が問題
- ・自然と不調和な開発があり、景観に合っているか疑問
- ・ゴミ・飲料缶などが散乱し、特に車で利用できる範囲のゴミが目立つ

イ 歴史的・文化的な資源

■ 委員からの意見

- ・古くから信仰の対象であり、このことを基本に考えることが必要
- ・古来より信仰の山として「御山」と呼ばれていた
- ・元禄時代の絵図と今の形が変わらないことは誇るべきことである
- ・月山で国宝級の出土品があったが、現在県立博物館（会津若松市）にあるので福島市に持って来たい
- ・山の北側にも歴史のあるところがたくさんあり、北側からの連携も考えることが必要
- ・自然・歴史・景観等についての専門的な検討が必要では

■ 市民からの意見

- ・どのように歴史的・文化的な資源等を保全するのか
- ・「歴史文化保存活用区域」として認定し、計画（歴史文化基本構想）策定を望む

③ 観光・交流機能等に関すること

ア 資源を活用した交流創出（自然・歴史・文化的資源）

■ 委員からの意見

- ・イベント等が開催しにくい（駐車場不足、露店出店料が高額等）
- ・規制緩和等によるイベントを開催しやすい条件づくりが求められる
- ・魅力あるものを創り上げることが必要
- ・イベントに人は集まるが、楽しみがないとリピーターが来ない
- ・若い人向けのPRが必要
- ・信夫山全体を自然・歴史公園とする

■市民からの意見

- ・多くの歴史・文化資源が十分に活かされていない
- ・「歴史文化保存活用区域」として認定し、計画（歴史文化基本構想）策定を望む
- ・定番スポットの整備
- ・公園センター等の整備（歴史・イベント・観光案内・資料館・カフェ・駐車場など）

イ レクリエーション機能

■委員からの意見

- ・道路の舗装が滑りやすい
- ・勾配が急で歩きにくい
- ・階段等の整備が求められる
- ・現状における施設等に不足している物の最低限の整備を検討すべき
- ・展望台に行きにくい、道路を作ることは反対
- ・羽黒神社への別ルート（大型車）の検討
- ・駐車場は信夫山公園外に設け、徒歩で散策できる安全な散策路の整備配置を検討
- ・エスカレータ設置等も検討してほしい
- ・遊歩道を歩く外国の方も目にするので、案内の多言語化も必要では

■市民からの意見

- ・観光的な要素がなく、県内・外にも知られていないただの里山
- ・他都市のような都市公園
- ・都市公園らしく整備、管理を望む
- ・公園センター等の整備（歴史・イベント・観光案内・資料館・カフェ・駐車場など）
- ・羽黒神社の参道ルート、境内等の整備
- ・定期的なイベントの実施

ウ 役割分担と連携

■委員からの意見

- ・イベントを開催しやすい環境づくり
- ・規制緩和による空き家の活用（お店など）
- ・墓参りの路上駐車で近隣は通行に苦勞

■市民からの意見

- ・多くの歴史・文化資源が十分に活かされていない
- ・「歴史文化保存活用区域」として認定し、計画（歴史文化基本構想）策定を望む
- ・定番スポットの整備
- ・公園センターの整備（歴史、イベント、観光案内、資料館、カフェ、駐車場など）

④ 防災機能に関すること

■ 委員からの意見

- ・ 人口減少による周辺環境の手入れ不足
- ・ 下草刈りなどをする人がおらず自然環境が悪化
- ・ 松枯れに加え、檜枯れの被害による倒木
- ・ 柚子出荷停止による柚子畑の荒廃
- ・ 人目につかないために起こる不法投棄が発生
- ・ 例えば文化センターが一時避難所に指定されているようだが、機能を果たしているのか疑問

⑤ その他

■ 委員からの意見

- ・ 駅から見えるため、来街者の目に入りやすく登りたいと思わせる山
- ・ 街なかからの案内（案内板・移動手段）
- ・ 県立美術館、県立図書館、文化センター、花の写真館などの周辺文化施設との連携が期待できる
- ・ 北側からの連携も考える必要がある

■ 市民からの意見

- ・ 案内サインが不足し、不統一で分かりにくく、汚損している
- ・ サインが統合的に管理されていない
- ・ 観光地感のあるサインの作成
- ・ 大平寺岡部線の早期実現と川のある景色の改善
- ・ 入口へバス停を設置
- ・ 駅から信夫山へ向かうシンボルストリートの作成

(2) 第2回委員会

① 信夫山の資源の保全

ア 自然・文化・歴史資源の保全

(ア) 調査、周知

- ・ 保全・活用を考える前に現状の各資源について貴重性の把握が必要
- ・ 資料の収集や専門家による調査、「専門委員会」の設置
- ・ 小学校の授業で信夫山のことを学び、訪れる仕組みを教育委員会と一緒に作っていけばよいのでは
- ・ 何が重要で貴重なのかを様々な方法で発信する必要がある
- ・ 市民が気付いていない貴重さを伝える努力が必要
- ・ 知ってもらうには、中央のマスコミに取り上げてもらうのがよい
- ・ 市政だよりやJAの広報誌等での情報発信が可能では
- ・ ガイドブックは個々に出すより官民集まって作るとよいのでは
- ・ ジオラマを製作・設置すれば来訪者が理解を深めやすいのでは

(イ) 自然

- ・ 自然を壊さず美しい信夫山を残したい
- ・ 現状を維持した活用を基本にすべき
- ・ 各種規制を緩めることなく信夫山を守り継ぐべき
- ・ 広大な森林や畑をどう守っていくか検討すべき
- ・ 特殊な地質により成り立つ自然林や地形は学術上貴重であり、防災上やむを得ない場合を除き開発すべきでない

(ウ) 文化・歴史

- ・ 里山なので周辺地域の人々の関わりが深い山
- ・ 古代から信達一円の信仰の山として崇められてきたことを踏まえ、自然と歴史を尊重した保全が望まれる
- ・ 福島では数少ない伝統芸能の太々神楽が現在も継承されている
- ・ 住民の協力を得て史跡周辺の景観配慮ができないか

(エ) 眺望

- ・ 北側の景色が素晴らしい、眺望をもっと活かさないか
- ・ 北側まで、市内全体が見られる展望
- ・ 自然を壊さず美しい信夫山を残したい

イ 防災機能等の充実

- ・汲み取り式のトイレは若い人には抵抗があるのでは
- ・街灯がないあるいは壊れている箇所がある
- ・倒木等に関し、最低限の維持管理・保全活動はしてほしい

② 信夫山の資源を活用した交流創出

ア 自然・歴史的・文化的な資源を活用した交流創出

- ・信夫山を訪れても物足りないという意見もあるが、貴重なものをきちんとわかるようにしておけば違おうだろう
- ・全体をミュージアムと捉えての施設整備を望む
- ・ミュージアムとしての価値があることを理解すること、そのための努力が必要
- ・今後も各種規制を緩めることなく信夫山を守り継ぐべき
- ・各種規制を取り外し、自然との調和を考慮しながらデザインを描けるよう要望したい
- ・市街化調整区域の特例等の緩和
- ・参考にすべきは自然公園と考える
- ・都市公園的な考え方は不適切と考える
- ・里山なので住む人たちが利用しやすくあるべき
- ・県外からもお参りに来た信仰の山だということも重要
- ・参加型イベントを増やしてもっと行きやすいイメージに
- ・古閑裕而と信夫山を結び付けるものはないか
- ・烏ヶ崎周辺に大規模な桜の公園を整備
- ・冬はイルミネーションで信夫山全体を照らす
- ・神社等の夜間ライトアップはできないか
- ・太々神楽を知ってもらいたい（元々六供のものであったが現在は御山地区で継承されている伝統芸能）
- ・太々神楽保存会と御山敬神会（暁まじりの大わらじ作り等を担当）の両方を知ると、関連性が見え、横の繋がりができた
- ・最小限のトイレと休憩所の整備
- ・道路・駐車場の整備は必要に迫られた段階でよいのでは
- ・専門的意見による必要な整備
- ・道路が狭い箇所はせめて側溝に蓋を設ける等の処置を望む
- ・こどもを山に行かせるのは心配な面もある、歩いて登るのは危険
- ・歩いて初めて気づくことがある

- ・来た人を満足させられる「何か」が何なのかを考える必要がある
- ・ガイドセンターは眺望はよいが、どう行くかが課題
- ・入口のわかりやすい場所に案内人が常駐する施設があるとよい
- ・官がガイドセンターの施設を整備し、民が運営する方法もある
- ・上まで車で行くのではなく、車を置ける場所から行ける方策
- ・駐車場を麓や公園外に確保し、小型電気自動車で展望台等を回る
- ・ケーブルカー、ゴンドラ、リフト等（昔はたくさん要望が出た）
- ・岩谷観音、羽黒神社、展望台など、メインの資産は観光しやすくメインのルート作成と観光地としての整備が必要
- ・信夫山を知るための活動や保全・活用については長年民間に任せられていたため 一貫性のない個々の活動となっている
- ・今後は行政が核となり、市民コンセンサスを得ながら、民間団体に協力を得ていくことで、大きな成果が期待できるのでは
- ・市政だよりや JA の広報誌等での情報発信が可能では
- ・ガイドブックは個々に出すより官民集まって作るとよいのでは
- ・自然観察会、歴史案内等の現地解説の機会を設ける必要がある
- ・信夫山のロゴマークがあるとよいかもしれない
- ・放射線量に不安が残る

イ 信夫山へのアクセスと連携

- ・駅前と信夫山の入口に各 1 か所の案内サインがほしい
- ・サインに全体的な統一性がほしい、一部老朽化している
- ・QR コード等を利用し画像で説明すると若い人にもなじむのでは
- ・街なかや入口に案内を兼ねた信夫山資料展示館が必要
- ・タクシー会社と連携し、駅から展望台往復コースを設定しては
- ・10 人乗り程度の乗合タクシー等を駅から信夫山まで周回させ、乗降フリー区間を設け格安料金で運行しては
- ・レンタサイクル貸出所を市役所や競馬周辺にも設置しては
- ・レンタサイクルに電動アシスト付き自転車を導入しては
- ・観光客はいつ来るかわからないので、周辺施設の休館日も検討しては

(3) 第3回委員会

① 保全に関する基本的方針

<現状の調査、評価と周知>

- ・学校教育について、近隣の小学校においては是非お願いしたい

<豊かな自然環境の保全>

- ・地域住民の役割について、日頃生活の中で通行中に監視はできても時間を取って巡視するのは難しい
- ・維持・管理するために人的・金銭的な負担をどのようにすべきか（ボランティアや NGO に頼るもの長期的視点から難しいのでは）

<風景と眺望の保全>

- ・通行の多い場所から枯れ木等の伐採をお願いしたい
- ・ボランティアの清掃に参加したが、公園周辺はゴミがあまりなかったため範囲や時期を検討してほしい
- ・キーワード（～見る・見える・過ごす～）について
 - 「見る」の漢字を「観る」にしては
 - 「聞く」を加えては
 - 「視る・聴くなど五官で感じる」にしては

<公園の防災機能の充実>

- ・道路の側溝に蓋をする案もあるが、あまり便利になりすぎると裏道としてスピードを出して通過する車が多くなるので心配
- ・安心安全ではなく、ある程度危険なところ（道が狭い、歩道がない等）もあることも周知すべきでは

② 活用に関する基本的方針

<人を呼ぶ仕掛けについて>

- ・Wi-Fi スポットを設け、自然・文化・歴史に関する情報を見られるほか、古関裕而と関連付けられないか（古関裕而が作曲した学校の校歌を聞けるなど信夫山を“エール”＝“応援”の場所にできないか）
- ・最先端の技術を使うことは大切：例）ももりんウォーカー（AR を活用したアプリ）
- ・簡単に使え、楽しみが加われば利用者は増える
- ・人が増えると見てほしいところと入ってほしくないところを分ける必要が出てくると思うので、人員面や金銭面も考える必要がある
- ・県外からも人を呼びたいのかを明確にしてほしい

- ・「夜景 100 選」に福島県で唯一選出されており、地元でない人が夜だけ来ると安全面が心配
- ・若い人も行きたくなる楽しみのある場所がひとつ欲しい

<信夫山へのアクセスについて>

- ・都市計画道路を整備するのだから、アクセス道路も鳥居の辺りまで誰でもわかるようにしては
- ・入口がわからないという問題は解決してほしい
- ・競馬場からのアクセスも検討し、JRA と連携すればもっと人を呼べるのでは

<歩行空間について>

- ・「花」のイメージを具体的に示してほしい
- ・元々自生していた花々を復活させてほしい
- ・駅前や競馬場からプランターやキャラクター（わらじい等）のフラッグなどで信夫山まで導くと
明るいイメージになるのでは

③ その他

<古関裕而とのつながりについて>

- ・旧祓川橋は古関裕而の先祖が寄贈したものであり、古関家に縁のある墓や歌碑が信夫山にある
ので PR しては

<優先順位について>

- ・まず「汚染土の安全かつ完全な搬出・放射線量の管理」や「『専門委員会』による資源の調査」
等による“安心・安全・美しく尊い信夫山”の実現 →
次に「小学校の遠足やイベントの充実、県内外への観光アピール等」という流れが理想と考える

<情報発信について>

- ・一番重要なのは情報を発信し続けることだと思う
- ・発信の方法も広く浅くではなくある程度狭めた範囲に特定するのもひとつの手段かもしれない
- ・興味のない人への情報伝達が課題

(4) 第4回委員会

① 保全に関する基本的方針

- ・「専門委員会」を必ず設置することを要望したい
- ・「専門委員会」で、保全と再生について、より広く、より深く、豊かにすることが一層重要
- ・信夫山の一部に存在する「赤玉石（凝灰角礫岩）」も守るべきでは
- ・これ以上道路や駐車場は要らない
- ・蝶の舞う里山、鎮守の森をと願う
- ・歩く人の安全が全然考えられていないと感じるので、人も車も利用しやすい道路づくりを加えてほしい
- ・「基本的方針イメージ」に記載のある遊歩道はあまり利用されていないのでは
- ・畑の整備をしなければならないのはわかるが、できない部分は市で何らかの対応をしてもらえないか

② 活用に関する基本的方針

- ・信夫山へのアクセスについてもっと記載が必要では
- ・写真美術館の一角に信夫山の風景等を展示すれば、近いので行ってみたいという人がでてくるのでは
- ・街と信夫山を結ぶという点で、信夫山を知る場所が街の中に必要
- ・駅ビルや駅前、街なかに「本格的な博物館」+「ガイドセンター」+「事務局」を設け、市民や来福者（観光客）への広報、官民共同参加の拠点施設としては
- ・「連携方針イメージ」の街なかとの連携について、国道13号線から県庁通りまで対象になっているようだが、もう少し楽しみのある道路にしてほしい
- ・神社をめぐるスタンプラリー等を企画し、街なかの商店街と連携して盛り上げられないか
- ・お土産品の開発なども有効では

③ その他

- ・委員会の結果がまとめられた後、広く市民に広報誌、市民の共有認識、共有財産になればよい
- ・「信夫山全体をミュージアムと捉え」と記載があるが、もっと踏み込んで「信夫山をまるごとミュージアムとする」ということで取り組んでほしい
- ・この方針に基づいて何をどこまでやっていくのか見通せているのか
- ・「市のまちづくり」の中に、「信夫山に関する部局あるいは係」を設けては

2 信夫山の資源の保全と活用に関する施策と取り組み例

(1) 保全に関する基本的方針

① 自然・文化・歴史資源の保全

ア 現状の調査、評価と周知

○情報・資料の提供
○専門家による調査と価値の評価、資産の認定
▶専門委員会の設置 ▶調査報告書・資料叢書刊行 ▶ガイドブックの作成・統合
○自然・歴史・文化等を知る機会の推進
▶学習・研究活動の活性化(開催・参加) ▶学習・研究活動に参加しやすい環境づくりの推進
○信夫山全体を共有できる仕組みづくり
▶市民参加の総合的な会議設置による情報の共有化
▶資源の情報発信と一元化(各ホームページ・SNS・広報誌・メディアの活用など)

イ 豊かな自然環境の保全

○団体・ボランティア等による活動の活性化
▶モニタリングや盗採掘防止等の巡視 ▶除草・清掃作業等への参加
○自然観察などに参加しやすい環境づくりの推進
○貴重な動植物の生育・生息環境整備
▶適正な植生管理
○保護活動への支援
▶活動費の助成
○人と自然が調和した環境整備の推進
▶トイレ・駐車場等の適切な配置 ▶環境に配慮した観察・散策ルートの整備
▶資源の適切な案内(案内サインの修繕・整備)
○自然資源の維持・保全に対する支援制度の充実
▶ファンドや助成制度の創設・活用
○適正な法規制や指定の推進
▶ルールづくりへの支援
○信夫山全体を共有できる仕組みづくり
▶保護活動団体の交流機会の創出
▶各種活動の情報発信と一元化(各ホームページ・SNS・広報誌・メディアの活用など)

ウ 貴重な信仰・文化・歴史資源の保全

○団体・ボランティア等による活動の活性化
○伝統行事・体験学習などに参加しやすい環境づくりの推進
○貴重な文化・歴史資源の適正な保全管理
○保護活動への支援
▶活動費の助成
○環境・施設整備の推進
▶トイレ・駐車場の適正な配置 ▶環境に配慮した観察・散策ルート整備
▶資源の適切な案内や安全対策（案内サインの修繕・整備）
○文化・歴史資源の維持・保全に対する支援制度の充実
▶ファンドや助成制度の創設・活用
○適正な法規制や指定の推進
▶ルールづくりへの支援
○信夫山全体を共有できる仕組みづくり
▶保護活動団体の交流機会の創出
▶各種活動の情報発信と一元化（各ホームページ・SNS・広報誌・メディアの活用など）

エ 風景と眺望の保全

○団体・ボランティア等による活動の活性化
▶除草・清掃活動等への参加
○景観資源の適正な保全管理（自然・信仰・文化・歴史・建造物）
○環境・施設整備の推進
▶視点場の適正な維持管理や整備の推進
▶施設の適切な案内や安全対策（案内サインの修繕・整備）
○専門家による調査と価値の評価、資産の認定
▶景観に関する専門委員会の設置 ▶ガイドブックの作成・統合
○適正な法規制や指定
▶ルールづくりへの支援
○信夫山全体を共有できる仕組みづくり
▶資源・各種活動に関する情報発信と一元化（各ホームページ・SNS・広報誌・メディアの活用など）

② 防災機能の維持

ア 森林及び農地のもつ防災機能の維持

○団体・ボランティア等による活動の活性化
▶除草・清掃作業等への参加
○森林・農地等の適切な保全管理の推進
○避難体制の整備
▶危険個所の周知（ハザードマップの作成・周知）

イ 公園の防災機能等の充実

○防災意識の高揚
○避難体制の整備
▶施設の適正な安全対策（避難経路等の案内サインの修繕・整備、公園施設（トイレ）のバリアフリー化、園路・遊歩道の蓋掛け・法面の保護・すべり止め・階段整備等（主な車道・遊歩道））

(2) 活用に関する基本的方針

① 自然・文化・歴史資源を活用した交流創出

○団体・ボランティア等の活動の活性化
▶伝統行事の推進（太々神楽）
○資源の公開
○安全で快適な交通の確保
▶適切な駐車場の配置・整備（自転車・自動車駐車場の整備、大規模なイベントにおける周辺駐車場との連携、展望台周遊ルート的小型電気自動車の運行）▶道路の安全対策（道路の蓋掛け・待避所設置・法面の保護・すべり止め・階段などの整備（主な車道・遊歩道））
▶自転車利用の促進（パークアンドサイクルライドの整備、レンタサイクルの充実）
快適な交流空間づくり
▶レクリエーション・交流環境の整備（博物館機能を有する観光・交流施設の整備、トイレや休憩所の整備、案内サインの充実、広場の整備、視点場の整備、古民家の再生）
○公共交通等による交流拡大
▶市内巡回バスとの連携（信夫山入り口バス停（駒山）の設置）
▶二次交通による交流促進（信夫山観光タクシーの運行、信夫山巡回バスの運行）
○イベント活動への支援
▶活動費の助成
○魅力の発信
▶資源・各種活動に関する情報発信と一元化（各ホームページ・SNS・広報誌・メディアの活用など）▶イメージづくり（ロゴマークの作成）▶地点ごとの空間線量率の表示
○交流活動の促進
▶文化・歴史を引用したイベントの開催

② 街なかと連携した交通手段の充実と街なみ・歩行空間の形成

○団体・ボランティア等の活動の活性化
▶道路の清掃や道路を活用したイベントの開催
○歩いて楽しいまちづくり
▶音楽と花のまちづくり▶花によるおもてなし事業
○回遊環境の整備
▶都市計画道路太平寺岡部線整備事業▶自転車利用の促進（パークアンドサイクルライドの整備：レンタサイクルの充実（電動アシスト付き自転車導入）▶案内サインの充実（デザインの統一、案内ルートの整備（AR含む））▶レクリエーション・交流環境の整備（博物館機能を有する観光・交流施設の整備）▶AR技術のイベントや観光等への活用